

今年の夏も自然の冷房



氷は展望台内にある氷室に貯蔵される

六甲ガーデンテラス・自然体感展望台「六甲枝垂れ」(灘区六甲山町)で20日、天然の氷を切り出して貯蔵する作業が始まった。暖冬の影響を受けつつも氷棚は今年も凍り付き、雨が降る中、スタッフが次々と切り出していった。

(鈴木雅之)

六甲山上ではかつて、池に張った氷を貯蔵して、夏場に神戸などの市街地に供給。氷を背負った人たちが下る山道は「アイスロード」と名付けられ、今に伝わる。

そうした歴史を伝えようと、六甲ガーデンテラスでは、氷棚にできた氷を展望

六甲山の天然氷 切り出し



氷棚から切り出されていく天然の氷。いずれも灘区六甲山町(撮影・辰巳直之)

……NEXTに動画

台内の氷室に貯蔵。夏になると氷室からの涼しい風を体感することができる。

展望台付近の気温は午前10時時点で5度と3月上旬並み。切り出しは2011年から続くが「雨になったのは初めて」とスタッフは話す。例年よりやや薄い厚さ8センチの氷が切り出され、氷室の中に積み上げられた。計32トンの貯蔵を目標に、さらに2回ほど切り出す予定という。

三田市の会社員豊田武司さん(36)は長男(3)と間近で見学。「六甲山で天然の氷を切り出していたなんて初めて知った。子どもも楽しんでくれました」と話した。